

ジャガイモと映画 (31)

<利活用 (2)>

Web ジャガイモ博物館館長

あさ ま かず お
浅間 和夫

105. 王の男 (ワンエ ナムジャ)

2005年、韓国映画。監督：イ・ジュニク。

李氏朝鮮の燕山君（ヨンサンゲン：第10代王。在位1495～1506年）治世下のことである。芸人チャンセン（カム・ウソン）と女形芸人コンギル（イ・ジュンギ）は仮面劇の良き相棒であり、綱渡り曲芸、人形劇などをやっている。しかし頑張ってもらったチップが蒸かしたジャガイモのこともある（写真）。



写真1 チップはジャガイモで

韓国にジャガイモが入ったのは日本より遅いと思われるが、早く渡ったとしても、この時代にジャガイモが出てくるのは100年早い。時代考証のチェックがいい加減である。コロンブスが第1回の航海のとき、バハマ、キューバ、ハイチなどを発見したのが1492年であり、南米からヨーロッパに

行き、ポルトガルかオランダ人により東洋に來たが、ジャガイモはまだソウルには来ていない時代の話なのである。この映画は韓国の観客動員数の記録をつくったが史実とフィクションを融合させドラマティックであるもののスクランダラスとも言えるストーリーである。

映画に戻り、二人は一旗揚げるために、漢陽（現代のソウル）へ行き、王をネタにした仮面劇で民衆の笑いと人気を得た。忠臣チョソンがその評判を聞き、二人を王宮へ招き、燕山君（チョン・ジニョン）の前で演じるようになったが、緊張のため上手くいかない。そんな中、女形芸人コンギルが機転を効かせて王様を笑わせることに成功する。こうして、チャンセンたちは王宮の芸人として召し抱えられる。

先王のネタを基にした仮面劇を見て、激怒した王は、ついに母親の死に関わった側室たちをその場で切り殺してしまい、ショックを受けた皇太后は死んでしまう。

王の寵愛を得た女形芸人コンギルは官職を与えられ、毎夜呼ばれて、王の前で指人形劇をやる。嫉妬心を燃やすチャン・ノクスにより、市中には当時普及しつつあったハングルによる抗議文が張り出され、それを見た王は激怒する。死刑の前日、チャンセンは綱渡りをしながら、王のネタで演ず

る。再び、王の怒りを買ったチャンセンは、両目を焼かれてしまう。悲しみのあまり、コンギルは手首を切って死のうとする。盲目になったチャンセンは、最後の綱渡りに臨む。一命を取り留めたコンギルも綱渡りに加わり、演技を続ける。“生まれ変わっても芸人になりたい”と二人は開放された気持ちになり、新しい世界へと旅立つのだった・・・

106. 博士と彼女のセオリー

(原題: The Theory of Everything)

2014年、イギリス映画。監督：ジェームズ・マーシュ。

1963年名門ケンブリッジ大学で理論物理学を学んでいたスティーヴン・ホーキング(エディ・レッドメイン)は、同じ大学で文学を学んでいるジェーン・ワイルド(フェリシティ・ジョーンズ)に出会い、その後恋に落ちる。スティーヴンは体がしだいに自由に動かなくなり、倒れて医者から筋萎縮性側索硬化症(ALS: 脳の命令が筋肉に伝わらない運動神経疾患。野球選手のルー・ゲーリック、徳洲会の徳田虎雄さんらで知られる病気)で余命2年と宣告されるが、周囲の反対を押し切って、結婚する。

男児が生まれ、ブラックホールに関する博士論文は教授たちから絶賛されるが、体は不自由になってきて、電動車椅子を使うようになる。『ビッグ・バン』に関する発表には馬鹿々しいと退場する学者がいたが、喝采を送る学者もいた。ジェーンは育児と介護に奮闘するなか、母の勧めで教会の聖歌隊に入る。そこで指導をしているジョナサン(チャーリー・コックス)がピアノ教師を兼ねて家庭を支援してくれ、父親

の代理のように子どもからも慕われる。

筆者の注目は、ジェーンがジョナサンに夫の業績を紹介するシーン。食卓でグリーンピースと串に刺したジャガイモを使って、「“豆”は量子論、素粒子や電子などミクロな世界を扱うものです。一方“ジャガイモ”は一般相対性理論で...」



写真2 ジャガイモは一般相対性理論

と説明するくだりがあった(写真)。3人目の子どもが生まれるが、誰の子かと噂されるようになり、立ち聞きしたジョナサンが「君が好きだ」と言うとジェーンも「私も貴方が」といいながら離れることになる。

博士が仏ボルドーでのオペラ観劇に招待され、その間子どもたちはキャンプとなり、ジョナサンが呼ばれる。公演を聴く最中に倒れてしまい、気管切開で命は助かるが声が出なくなる。『スプリングボード』を使うために有能な看護師エレインを雇い、その後、1字ずつ入力後埋め込みの音声合成器を使えるようになる。それを使って本を出すことができ、『ホーキング、宇宙を語る: ビッグバンからブラックホール』が世界的なベストセラーになる。後半、ジェーンとジョナサンは博士公認の結婚をし、博士も看護師と結婚することとなる。

その後、エリザベス2世女王から博士と

ジェーンと一緒にバッキンガム宮殿に招待され、大英帝国勲章 (CBE) をもらう。「『宇宙を語る』は難しいけど売れている本なのね」と言われる。ナイトの称号も授与しようとするが、自由社会主義者の博士は辞退し、気持ちを一番知っているジェーンも同意する。そうして宮殿の庭で博士はジェーンに「私たちが作ったものを見て」と言う。その前では大きくなった3人の子どもたちが遊んでいるのだった・・・

実話をもとにしているから後半にはいろいろ詰まっており、看護師とは離婚している。全体として家族がする介護の大変さも絡み、レッドメインの演技で感動した作品に仕上げられている。加えて、創造の神は存在するのか、宇宙は有限なのか、時間とは何か、等々を考えさせる映画であった。

107. スターウォーズ

(原題: Star Wars)

1977年、アメリカ映画。監督:ジョージ・ルーカス。

遙か彼方の銀河系における大冒険の話である。悪の化身の親衛隊長ダース・ベイダーの率いる帝国軍と設計図持ち出しという特殊任務を持ったチビ・ロボットと偶然に出会ったルーク・スカイウォーカーら自由の戦士たちの反乱軍との間で、激烈な戦いが続けられていた。氷の惑星ホスの秘密基地

を帝国軍に発見され、激しい攻防の末、反乱軍は全員退去することになる。

ハン・ソロ、レイア・オーガナ姫たちはファルコン号で脱出する。しかし、敵の宇宙船に追われ、小惑星帯に飛び込んでしまう。この宇宙空間に点在する無数の小惑星の中にSFXスタッフが遊び心で入れた本物のジャガイモが1個混じっていると言う話が話題になったのでここに取り上げることとした。「スター・ウォーズ エピソード5. 帝国の逆襲」の宇宙空間シーンで主人公達の乗るミレニアムファルコン号が帝国軍の追跡を振り切るためにアステロイドベルトに逃げ込むシーンがある。その隕石群のなかにジャガイモ1個が使われていたり(写真左側前方)、スニーカーが飛んできたり・・・ お金も暇もある? という読者諸氏、DVDでも借りてきて、このロンドン交響楽団のシンフォニーを楽しみつつ、惑星を念入りに調べてみてはいかが? 当時33歳の監督ジョージ・ルーカスらしい映画であった。

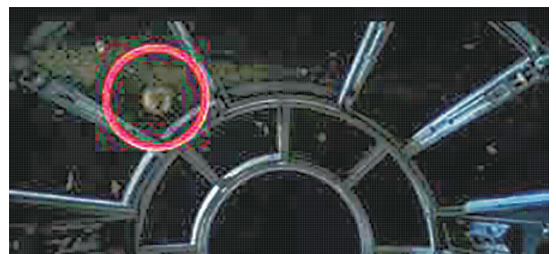


写真3 ジャガイモは宇宙の星